

令和のとやま型教育推進事業

本年度は、義務教育学校「西の杜学園」と同一中学校区の「湖南小学校、十三中学校」の3校を研究校に指定し、第1回教育実践研究会「西の杜学園（6月21日）」、第2回教育実践研究会「湖南小、十三中（11月8日）」を開催しました。研究校では、それぞれの実態に応じ、創意工夫を凝らして研究実践に取り組み、公開授業等を行いました。また、市内教員の指導力の向上を図るため、講師を招聘した講演会を開催しました。

1 研究課題・・・・・・・・「主体的・対話的に学びを深める児童生徒の育成」 《実践研究テーマ》・・・【問題発見・解決型学習】、【ICT教育】

2 取組の概要

(1) 具体的な取組

【問題発見・解決型学習】

西の杜学園

「既習事項の確認ができる学習環境の工夫」

2年算数科「100より大きい数をしらべよう」では、児童が、自ら課題を解決していくことができるように学習の足跡を教室に掲示し、既習事項を思い出したり、見直したりしながら考えられるように学習環境を整えて学習を進めました。本時で、「780の表し方」を考える際、その手立てとして、「位取り表」「模擬貨幣」「数カード」「数直線」を準備し、780という数を多面的に捉えられるように工夫しました。課題解決のために、一人で考える時間を十分に確保したり、児童が自分の意見に自信をもって発表できるように、机間指導で称揚したりしました。



〈児童への声かけの様子〉

湖南小学校

「学びの質を高めるための対話場面の設定」

4年総合的な学習の時間「湖南の環境について調べ、発信しよう」では、とやま環境エコチャレンジ10や仏生寺川の調べ学習等の体験的な学習を通して「湖南の環境をよりよくしたい」という共通の目標ができました。繰り返し対象と関わる中で、「地域をきれいにしたい」「あいさつを広げたい」など、一人一人が興味・関心のあるテーマを設定し、小グループで取り組みました。その際、活動を行う中で生まれた疑問や困り事について、ワールドカフェ方式で話し合う場を設けたことにより、他のグループの困り事であっても自分事として考え、アドバイスしたり、自分たちのグループの活動や課題を振り返ったりすることができました。



〈ワールドカフェ方式の様子〉

「他教科との関連による議題の選定」

5年学級活動(1)「湖南あいさつパワーアップ大作戦！5年生にできることを考えよう」では、議題の選定に関して、国語科「よりよい学校生活のために」で、課題として挙げた「元気よくあいさつしたい」と関連付けて取り組みました。学校生活をよりよくするための課題を見付け、解決策を考える必要性を実感するとともに、自分事として捉える中で、「あいさつ運動で5年生ができることを考えよう」を議題として選定しました。学級会では、一人一人が事前に記入した学級会カードを基に積極的に意見を出し合ったり、互いの意見を学級目標や話合いの目当てに照らして比べたりしながら、合意形成を図ることができました。



〈学級会で挙手をする児童〉

「課題解決に向けた自由進度学習の取組」

2年国語科「作品がもつ魅力を伝えよう（走れメロス）」では、「作品の主題を伝えるために、最も効果を発揮している工夫は何かを考えよう」という課題について、生徒一人一人が追究活動を行いました。その際、映像教材や既習教材を活用したり、読み取りの視点を参考にしたりしながら、自分の課題を解決していく自由進度学習を取り入れました。



＜友達と相談して取り組む生徒＞

「既習事項とつなげた課題の設定」

2年数学科「平行と合同」では、既習事項とのつながりを意識した課題を設定することで、生徒は課題解決までの過程を選択しながら学習に取り組むことができました。



＜学習の選択を相談する様子＞

【ICT教育】

「考えをまとめ深める共有と、学習の蓄積のための活用」

7年社会科「世界各地の人々の生活と環境」では、資料から読み取ることができる衣食住の工夫について自分の考えをもち、グループや全体で考えを深められるように、Formsのアンケート機能を活用し、学習内容をまとめたり振り返ったりする場を設定しました。単元を通して、学習内容をまとめる際に1人1台端末を活用し、記述した内容を友達と共有したり、学習の足跡として蓄積したりすることができるようにしました。



＜考えを端末にまとめる生徒＞

「振り返りの『可視化・共有』への活用」

5年学級活動(1)の終末の振り返りでは、ICTを活用して、一人一人が自己評価及び学級全体の振り返りを4段階評価と記述で行いました。4段階評価を即時に集計して数値化し、円グラフとして可視化したり、記述した振り返りを互いに見合ったりして共有することにより、自分の学びを客観的に捉え、次に生かそうとする姿が見られました。



＜振り返りの「可視化・共有」＞

「互いの意見の共有ツールとしての活用」

2年国語科「作品がもつ魅力を伝えよう（走れメロス）」では、Teamsのホワイトボード機能を用いて記録することで、学習しながら互いの意見を共有できるようにしました。生徒は他の意見を参考にして自分の考えを見直すなど、自己調整しながら課題の解明に向けて学習を進めました。



＜ホワイトボードでの共有＞

「課題解決への意欲付けとしての活用」

2年数学科「平行と合同」では、課題「多角形の内角の和は、どのように表すことができるだろうか」について、Scratch(プログラミングソフト)を用いて学習を進めました。角度を入力すると、瞬時に作図できるソフトを用いることで、多角形の内角の和の式の一般化等の課題解決への意欲付けを図りました。



＜数値を入力している様子＞

講演会（内容を抜粋して再掲）

第1回（6月21日）、第2回（11月8日）教育実践研究会 講師 岐阜聖徳学園大学 教授 玉置 崇 先生

「対話ができるようになるポイント」

- ①対話のイメージをもたせるために、よい対話をしている場面を捉え、価値付ける。教師が求めている具体例を示す。
- ②対話の原点である「分からない」と言える子供を育てる。小グループで、隣や近くの人に小さい声でも「分からない」と言えるようにする。
- ③対話の形をとらなくても、教師が子供と子供をつなぐようにする。子供同士が評価し合い、対話することのよさを実感できるようにする。

「『学び合う学習』の指導のポイント」

- ①関わり合う機会を増やす。（考えを深めるために、基本はペア。グループは4人まで）
- ②つながりをつくる。（考えをつなぐ、聴き返す、困っている仲間へ寄り添い、孤立させない）
- ③聴き合う関係づくりに努める。（よく聴き合い、知恵を出し合う。つながりやすい座席配置にする）
- ④よくしゃべる教師から、よく聴く教師となる。（表情豊かに耳を傾ける。よい聴き方を褒めて、具体的な聴き方を示す）



＜玉置先生による講演＞

「組織力で高める校内研究」…多忙感が問題になっている今こそ、教員の得意分野を生かして指導における財産を伝え合い、共有することで、個を高め、学校全体としての指導力を蓄える。

「指導と評価の一体化」…「学習目標を明確にする」「目標に向けた指導を行い、評価する」「評価結果を指導改善に生かし、子供の姿が学習目標に達するようにする」など、指導と評価を切り離すことはできない。

「主体的に学習に取り組む授業づくり」…「選ぶ」「決める」「自力で追究する」など、授業の場面設定を工夫することで、子供が自分事として振り返りを行い、自己調整しながら、主体的に取り組むようになる。

「対話的な授業づくり」…発言する子供を勇気と思いやりをもって支える聴き手となるように、周りの子供を育てることが大切である。



＜澤井先生による講演＞

(2) 成果

- ・「問題発見・解決型学習」を意識して、「既習事項を確認する」「身近な事柄、既習事項、他教科と関連付ける」「学習活動に必要感をもたせる」「課題解決に向けた自由進度学習を提示する」など、問題を見いだしたり、問題意識を高めたりする導入や学習環境を工夫することにより、児童生徒は、問題の解決に向けて、意欲をもって学習に取り組むことができました。
- ・課題解決への過程では、個で考える時間を十分に確保し、考えを認め、称揚したり、学習の足跡の掲示や自力解決の助けとなるツールを提示したりすることにより、児童生徒は、自信をもって自らの力で取り組もうとすることができました。また、児童生徒の実態を捉え、機を逃さず、必要感のある対話場面を設定したことにより、他の考えのよさを参考にし、自分の考えを見直したり、深めたりすることができました。
- ・ICTを活用することで、個の考えを「可視化する、全体共有する、デジタルで蓄積する」ことが容易になったことにより、「自分の活動内容を瞬時に確認する」「考えを練る場面で、自他の考えやグラフ化したデータを閲覧し、互いの気付きを共有する」「まとめや振り返りの場面で、互いの学びを共有し、考えを深め学習の自己選択につなげる」「個の学びをデジタルで蓄積し、いつでも自己の変容や成長として実感する」ことができるようになりました。

(3) 課題

- ・問題発見・解決型の学習の充実に向けて、「なぜだろう」「分からない」という児童生徒のつぶやきをもっと大切に、学習者全体で学んでいく雰囲気づくりが必要となります。また、効果的な対話場面の設定、次の学習に生かす振り返りの充実等、教師の手立てを更に工夫する必要があります。
- ・児童生徒のメタ認知を高めるために、学習の振り返りは重要ですが、児童生徒にも教員にも負担なく継続できる方法を工夫する必要があります。また、自由進度学習を取り入れることについては、学習活動の目的等が児童生徒に理解されているか、教員が指導すべきことを確実に押さえているかなど、指導過程や指導内容等を吟味する必要があります。
- ・今後のICTの効果的な活用について、「児童生徒同士のつながりを深める」「学びを深める」「考えを広げたり深めたりする」などの事例に取り組み、共有していく必要があります。

3 今後に向けて

共に学び合い、高まり合うための基盤となる、児童生徒の関係づくりとともに、学びを深めるためのICTの効果的な活用に向けて、授業改善を図っていききたいと考えています。

令和7年度「令和のとやま型教育推進事業」のお知らせ

- ・オンライン研修会（講演）・・・期日 6月6日（金）
講師 岐阜聖徳学園大学 教授 玉置 崇 先生
- ・教育セミナー（講演）・・・期日 7月31日（木）
講師 大空小学校初代校長 木村 泰子 先生
- ・教育実践研究会（公開授業、研究協議、講演）
・・・期日 11月14日（金） 海峰小学校、灘浦小学校
講師 岐阜聖徳学園大学 教授 玉置 崇 先生

学力向上に向けた「具体的実践策の成果・課題」

（「令和6年度全国学力・学習状況調査結果の活用ワークシートより」）

各校では、全国学力・学習状況調査結果を活用し、教員の指導方法や児童生徒の学習の改善につなげるために、「具体的実践策」に取り組んでいます。その一部を紹介します。

学校名	「具体的実践策の成果・課題」（一部を抜粋）
朝日丘小	表現する活動 国語科では、参考となる例文を提示したことで、自信をもって文章を書くことができた。算数科では、キーワードや接続詞等を提示したことで、説明する力が付いてきた。
比美乃江小	読む力、情報を整理する力を高める 文章から大事な言葉を見付けたり、線を引いて読んだりしたことで、「書き抜く」「○字でまとめる」などの条件に応じた書き方ができる子供が増えた。
宮田小	授業改善（国語科・算数科を中心に） 「話す」「聞く」のスキルを向上するために、全校で取り組んだことで、ポイントを意識ながら「話す」「聞く」活動に取り組むことができた。
窪小	考えを書く活動 考えや感想を100字で書く活動を毎週1回行った。教師が内容を認め、アドバイス等のコメントを入れたことで、限られた時間内で書くことができるようになった。
湖南小	校内研修の充実 湖南スタンダード（振り返りの視点）を活用するとともに、授業の「振り返り」にICTを活用したことで、子供たちは、自分の学びを実感できるようになった。
十二町小	対話タイムの設定 年間を通して実施し、事前に教師が目当てを示したり、子供が話す前に考えを整理したりしたことで、順序を工夫したり、理由を明確にしたりして話す子供が増えた。
上庄小	基礎学力 習った漢字を使って日記を書いたり、ミニテストに向けて漢字を練習したりするなど、書く活動を意図的に設定し、漢字を覚えようとする意欲を高めた。
海峰小	授業づくり 国語科では、情報を整理し、比較する活動を取り入れ、算数科では、学んだことを日常生活の場面で活用する機会を設けるなど、重点を置いて、授業づくりを行った。
灘浦小	学び合い 話型やハンドサイン、ICTを効果的に活用することで、友達の見解を参考にして、自分の考えを深めたり、友達の考えとつなげて話し合ったりすることができた。
西の杜（前期）	ICT活用 導入における課題の提示の工夫や対話、振り返りの場で、効果的にICTを活用することで、主体的な学びにつながるような学習を進めることができた。
南部中	言語活動の充実 各教科で、課題に対して自分の考えを書いたり、話し合ったりする言語活動に取り組んだことで、思考力や表現力の向上がみられるようになってきた。
北部中	考えて行動する生徒の育成 学習内容を日常生活の事象と結び付けて捉えさせたことで、目標とする家庭学習の時間を達成した2、3年生の割合は増えたが、1年生の割合は減った。
十三中	自己調整 ICTを活用した自由進度学習を行い、互いの考えを閲覧し、自己選択できるようにしたことで、生徒一人一人が自己調整をしながら学習を進められるようになった。
西條中	「分かる」「できる」を実感できる授業の展開 各教科で、「振り返りの時間」を確保し、本時の学びを見つめ直したことで、「分かる」「できる」を実感できるとアンケートに回答した生徒が90%となった。
西の杜（後期）	主体的な学習習慣の確立 各教科で話し合いの場を設定したことで、「自分の考えを伝え、他の意見に耳を傾けて、考えを広げたり、学びを深めたりすることができた」と、多くの生徒が実感した。

※各校の取組の詳細は、＜小中共通フォルダ＞ → ＜教育総合センター＞ → ＜05-学力向上関係＞ → ＜R6 全国学テ活用ワークシート（成果・課題）＞に保存してありますので、参考にしてください。